

6. 各交流拠点施設及び周辺地域の再整備方針

- 町全体の交流拠点施設及び周辺地域の再整備方針を踏まえ、施設エリアごとの将来像及び戦略方針を次のように設定します。

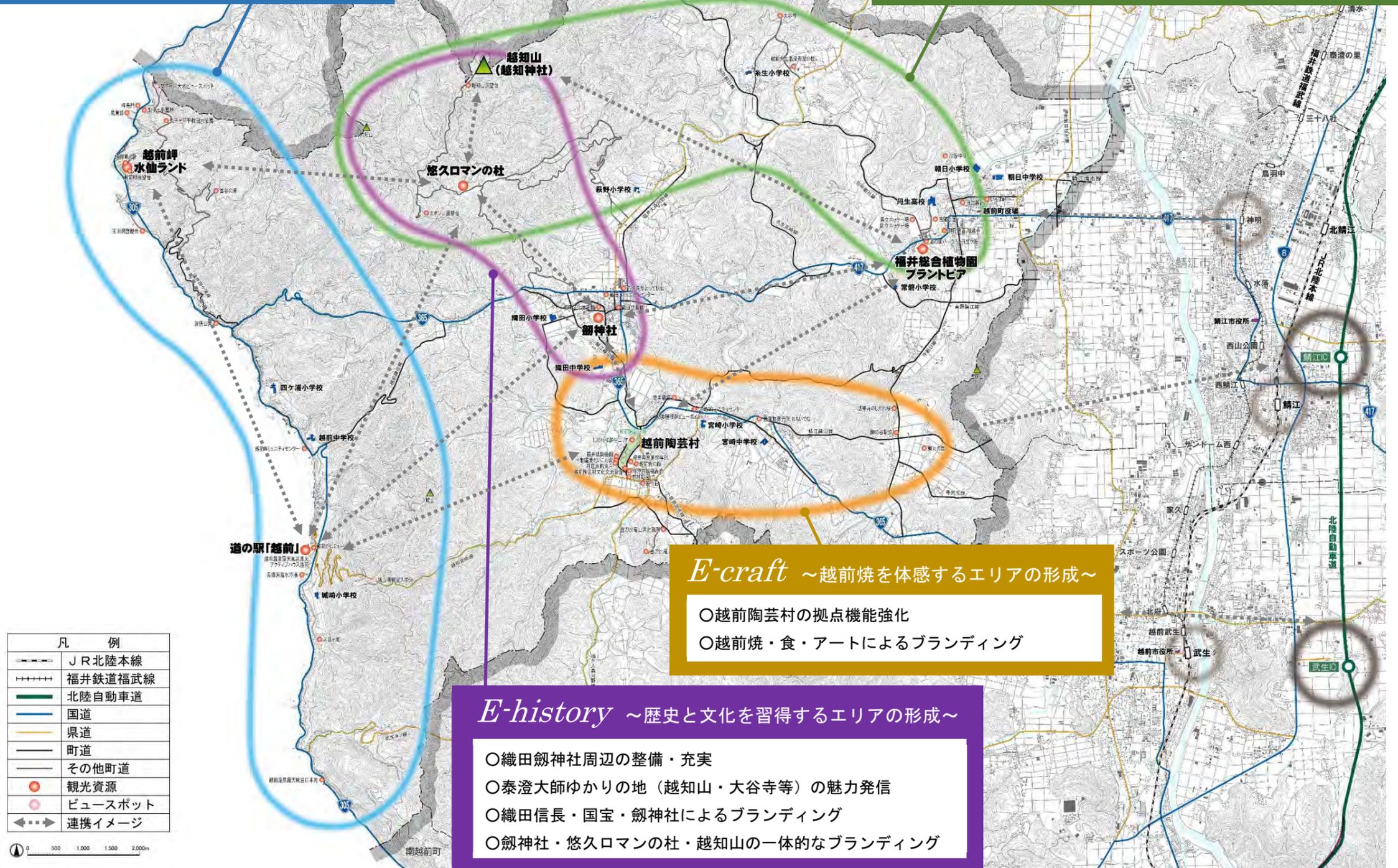
【施設エリアごとの将来像と戦略方針】

E-coast ~越前海岸を楽しむエリアの形成~

- 道の駅「越前」の拠点機能強化
- 水仙ランドの拠点機能強化
- 海鮮・水仙・温泉・海水浴によるブランディング

E-nature ~自然を学び体験できるエリアの形成~

- プラントピアの拠点機能強化
- 越知山の環境整備
- プラントピア・越知山・悠久ロマンの杜の一体的なブランディング



E-craft ~越前焼を体感するエリアの形成~

- 越前陶芸村の拠点機能強化
- 越前焼・食・アートによるブランディング

E-history ~歴史と文化を習得するエリアの形成~

- 織田劔神社周辺の整備・充実
- 泰澄大師ゆかりの地 (越知山・大谷寺等) の魅力発信
- 織田信長・国宝・劔神社によるブランディング
- 劔神社・悠久ロマンの杜・越知山の一体的なブランディング

E-nature ～自然を学び体験できるエリアの形成～

<主な現状・課題>

- ・プラントピア：来園者の減少／獣害対策が急務／標本整理の未実施…等
- ・越知山：白山開山 1300 年（泰澄大師ゆかりの地）／県のトレイルランルートに認定／越知神社及び周辺部の整備の不足／福井市や周辺施設間の連携の不足／登山道の場所がわかりにくい／冬期間にトイレが使えない…等

<基本的な考え方>

- ・プラントピアは、四季折々の植物や膨大な数の標本を保有しており、観光交流施設というよりも教育研究施設としての要素が強くなっています。また、越知山では、高校生との協働による樹木調査や、地域住民との連携による樹木名板の設置などの活動を行っています。
- ・このことから、季節ごとの彩り豊かな植物を楽しく学べる場としての有効活用を図り、町内外の植物愛好家やアウトドア愛好家、小中学生や高校生、大学生などが集う交流拠点としての再整備を目指します。
- ・また、越知山に近い織田地区の「悠久ロマンの杜」は、茅葺屋根の戸建て宿泊施設を貸し切りで使用できるなど、春～秋の観光シーズンには人気の施設となっています。さらに、泰澄大師ゆかりの越知山には、散策コース・トレイルコースや展望台、エボシ山展望台などもあることから、これらの資源を活かし、自然体験学習や郷土史学習の拠点として有効活用を図ります。

<プラントピアの再整備に向けた施策>

基本方針：植物とふれあい自然に対する豊かな感性を育てる環境づくり

区分	施策項目	実施主体（◎：主体、○：連携）				実施時期 (H29～37)
		地元	施設	町	その他	
ハード	①獣害対策の実施（フェンスの設置）		○	◎		_____
	②展望台からの眺望確保		○	◎		_____
	③園内歩道や湿地木道の改修		○	◎		_____
	④飲食コーナーの設置（屋上の活用、休憩スペースの改修等）		○	◎		_____
ソフト	⑤短時間で楽しめる観光ツアーコースの設定		◎		観光連盟	_____
	⑥QRコードによる園内の回遊性の向上（園内の各植物の説明、回遊イベントへの活用等）		◎	○		_____
	⑦子ども向けイベントの充実や遠足の誘致		◎			_____
	⑧PRや土産物の充実（春の七草、秋の七草、山菜の販売等）	○	◎		観光連盟	_____
	⑨屋上を利用したイベント開催やカフェの実施		◎			_____
	⑩入園料の無料化の検討		◎	○		_____

(前頁の続き)

区分	施策項目	実施主体 (◎：主体、○：連携)				実施時期 (H29～37)	
		地元	施設	町	その他		
ネット ワーク	⑪越知山との連携強化 (登山道の樹木名板の設置、登山者への歴史・文化・植物の情報提供等)		◎	○	越知山 泰澄塾		
	⑫地域住民等による利活用の促進	◎	○				
	⑬自然植物の情報収集と保全の拠点化 (希少植物保全、植物資源の開発等)		◎	○			
	⑭教育研究機関との交流活性化 (丹生高校や大学、県総合グリーンセンター、里山里海湖研究所との共同事業)		◎	○	学校等		
	⑮サポーター組織との連携 (友の会など)		◎		友の会		

※実施主体の基準

- ・施設の改修については、原則主体(◎)が町、連携(○)が施設
- ・施設内イベント等については、原則主体(◎)が施設となるが、大規模なものは主体(◎)が町、連携(○)が施設
- ・その他の欄には、地元・施設・町以外に連携が必要と思われる各種団体等を記載
- ・観光ツアー等及び広告、PR事業については観光連盟と連携
- ・食に関わる事業については地元と連携

①獣害対策の実施

- ・イノシシ等の獣害対策として、下図の候補箇所においてフェンス (金網柵) を設置します。

▼平成 25 年度被害箇所



▼フェンス設置候補箇所



▼園内湿地ミズバショウ被害 (H25. 8. 11)



▼園内芝生広場ユリ球根被害 (H25. 8. 11)



出典：プラントピア提供資料

②展望台からの眺望確保

・園内の展望台からの眺望を確保します。

▼展望台



▼展望台からの眺望



③園内歩道や湿地木道の改修

・来園者の安全で快適な歩行空間を確保するため、園内の歩道（園路）や湿地木道など、傷んだ箇所を改修します。

▼園路の様子



▼湿地木道の様子



④飲食コーナーの設置

・プラントピアの屋上にある展望テラスの活用（カフェの設置やイベントの開催等）や休憩スペースの改修を行います。

▼展望テラス出入口



▼展望テラス（屋上）



⑤短時間で楽しめる観光ツアーコースの設定

- ・広い園内のみどころを短時間で巡ることができる観光ツアーコースを検討・設定し、気軽にプラントピアを楽しめる環境を整備します。

⑥QRコードによる園内の回遊性の向上

- ・園内の案内サインや各植物の名板等にQRコードを設置することで、各植物の詳細をスマートフォン等で学習することができるようコンテンツ（データベース）を整備します。また、園内の回遊イベントへの活用等を図るなど、園内を楽しく巡ることができるよう工夫します。

▼QRコード設置イメージ



出典：高知工科大学「植物園化構想」HP

⑦子ども向けイベントの充実や遠足の誘致

- ・ファミリー層をターゲットに、リースづくり教室などの既存のイベントを活かしつつ、体験学習や園内散策などの子ども向けイベントの充実を図ります。また、近年減少している町内小学校の遠足を積極的に誘致します。

▼リースづくりの様子



▼遠足の様子



⑧PRや土産物の充実

- ・これまでに取り組んでいる広報を継続しつつ、ホームページやSNS（フェイスブックやツイッター、ライン等）を活用したPRの充実を図ります。また、植物園である特性を活かし、土産物の一つとして春の七草、秋の七草、山菜などの収穫・販売に取り組みます。

⑨屋上を利用したイベント開催やカフェの実施

- ・④のハード対策にあわせて、屋上（展望テラス）を活かしたイベントの開催やカフェの設置等を行います。

【用語解説】

- ・QRコード：1994年にデンソーの開発部門（現在のデンソーウェーブ）が開発したマトリックス型二次元コード。QRはQuick Responseに由来し、高速読み取りができるように開発された。当初は自動車部品工場や配送センターなどでの使用を念頭に開発されたが、現在ではスマートフォンの普及などにより日本に限らず世界的に普及している。
- ・SNS：ソーシャル・ネットワーキング・サービス（Social Networking Service）のこと。

⑩入園料の無料化の検討

- ・現在、幼児を除き入園料を徴収していますが、プラントピアの教育・研究機関としての役割や施設の維持・管理・運営、来館者へのサービスレベル等を総合的に勘案し、入園料の無料化の可否を検討します。

⑪越知山との連携強化

- ・登山道の樹木名板やQRコードの設置、登山者への歴史・文化・植物の情報提供等、越知山と連携した交流拠点施設としての機能強化を図ります。

▼実際に設置された樹木名板



⑫地域住民等による利活用の促進

- ・プラントピア周辺の地域住民が意識的に興味を持ち、地域のイベント等での積極的な利活用を図るなど、施設を「使って支える」活動を促進します。また、施設側からの地域住民向けのPRの充実を図り、「地域に愛される」施設運営を推進します。

⑬自然植物の情報収集と保全の拠点化

- ・越知山を中心とする中山間地域に息づく植物園として、自然植物の情報収集やデータベース化、標本整理等を推進するとともに、希少植物の保全や植物資源の開発等に貢献します。

⑭教育研究機関との交流活性化

- ・丹生高校や大学、県総合グリーンセンター、県里山里海湖研究所との共同事業を推進するなど、教育研究機関との交流の活性化を図ります。

⑮サポーター組織との連携

- ・既存の「プラントピア友の会」には、町内外に多数の会員を有することから、上記の各種ソフト施策の実行にあたって積極的な連携を図ります。

＜プラントピアの再整備箇所位置図＞



<越知山の環境再整備に向けた施策>

基本方針：泰澄大師ゆかりの地として自然や歴史を体験できる環境づくり

区分	施策項目	実施主体（◎：主体、○：連携）				実施時期 (H29～37)	
		地元	施設	町	その他		
ハード	①展望台の充実（眺望説明板の更新等）			◎			
	②花立峠の休憩スペースからの眺望確保（眺望を遮る樹木の伐採等）			◎			
	③殿池の周辺整備			◎			
	④尼ヶ谷～悠久ロマンの杜方面への道路の整備			◎			
ソフト	⑤トイレの開設時期の見直し			◎			
	⑥トレイルランや登山等アウトドア活動の魅力のPR			◎	観光連盟		
	⑦パンフレットの充実			◎	越知山観光開発促進協議会		
	⑧越知山に関する写真展の開催			◎	越知山泰澄塾		
	⑨白山開山 1300 年にあわせ、泰澄大師ゆかりの文化財（大谷寺等）と連携したイベントの開催	○		◎	越知山泰澄塾		
ネットワーク	⑩悠久ロマンの杜との連携強化			◎	悠久ロマンの杜		

・「越知神社の老朽化対策」についても将来的な検討事項とする。

①展望台の充実

・眺望説明板の更新等、越知山展望台の充実を図ります。

▼越知山展望台



▼眺望説明板



②花立峠の休憩スペースからの眺望確保

・花立峠の休憩スペースからの眺望を阻害している樹木の伐採等を行います。

▼花立峠の休憩スペース



▼眺望を阻害する樹木



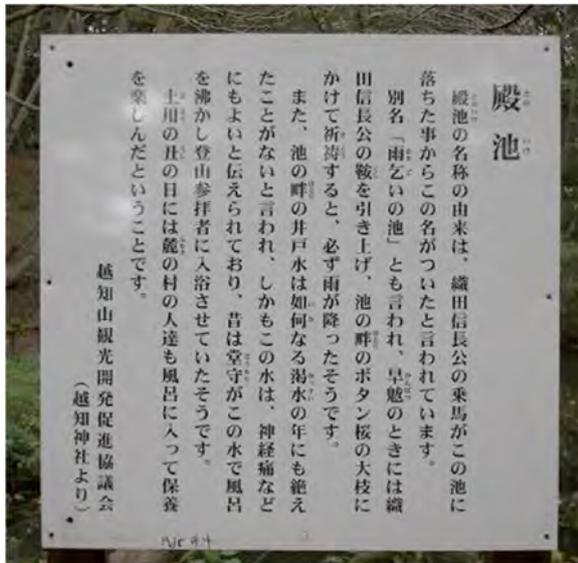
③殿池の周辺整備

・越知神社の一角にある「殿池」の周辺を整備し、観光資源として活用します。

▼殿池の現状



▼殿池の説明板



▼御膳水(若返り水)



④尼ヶ谷～悠久ロマンの杜方面への道路の整備

・福井市側と越前町側を結ぶ道路の整備(ミッシングリンクの整備)を検討します。

▼道路整備検討箇所



【用語解説】

・ミッシングリンク：未整備で途中で途切れている道路区間のこと。

⑤トイレの開設時期の見直し

- ・越知神社前に「越知山公衆トイレ」が整備されていますが、冬期に利用できないなど、登山者や利用者のニーズに対応しきれていない状況であることから、開設時期を見直します。

▼越知山公衆トイレ



⑥トレイルランや登山等アウトドア活動の魅力のPR

- ・越知山周辺には登山道が整備されているほか、福井県のトレイルランコースに認定されていることから、それらのアウトドア活動の魅力をPRすることにより、カップルや家族連れ、友人同士での登山やハイキングなどの集客増大を図ります。また、地域住民も積極的に参画し、「登って支える」活動により、魅力の維持向上を図ります。

⑦パンフレットの充実

- ・越知山観光開発促進協議会が発行している「越知山泰澄の道ハイキングマップ」をベースに、駐車場の位置やアクセス道路、各コースの概ねの所要時間、殿池などの資源を追加するなど、パンフレットの充実を図ります。

⑧越知山に関する写真展の開催

- ・越知山泰澄塾との連携により、越知山の写真展やフォトコンテストを開催し、越知山への愛着や興味・関心の醸成を図ります。

⑨白山開山 1300 年にあわせ、泰澄大師ゆかりの文化財（大谷寺等）と連携したイベントの開催

- ・平成 29 年度に白山開山 1300 年を迎えることから、大谷寺などの泰澄大師ゆかりの文化財や場所と連携したイベントを開催し、白山信仰と泰澄大師の歴史を広くPRするとともに、地域の子どもたちが歴史とふれあえる機会を創出します。

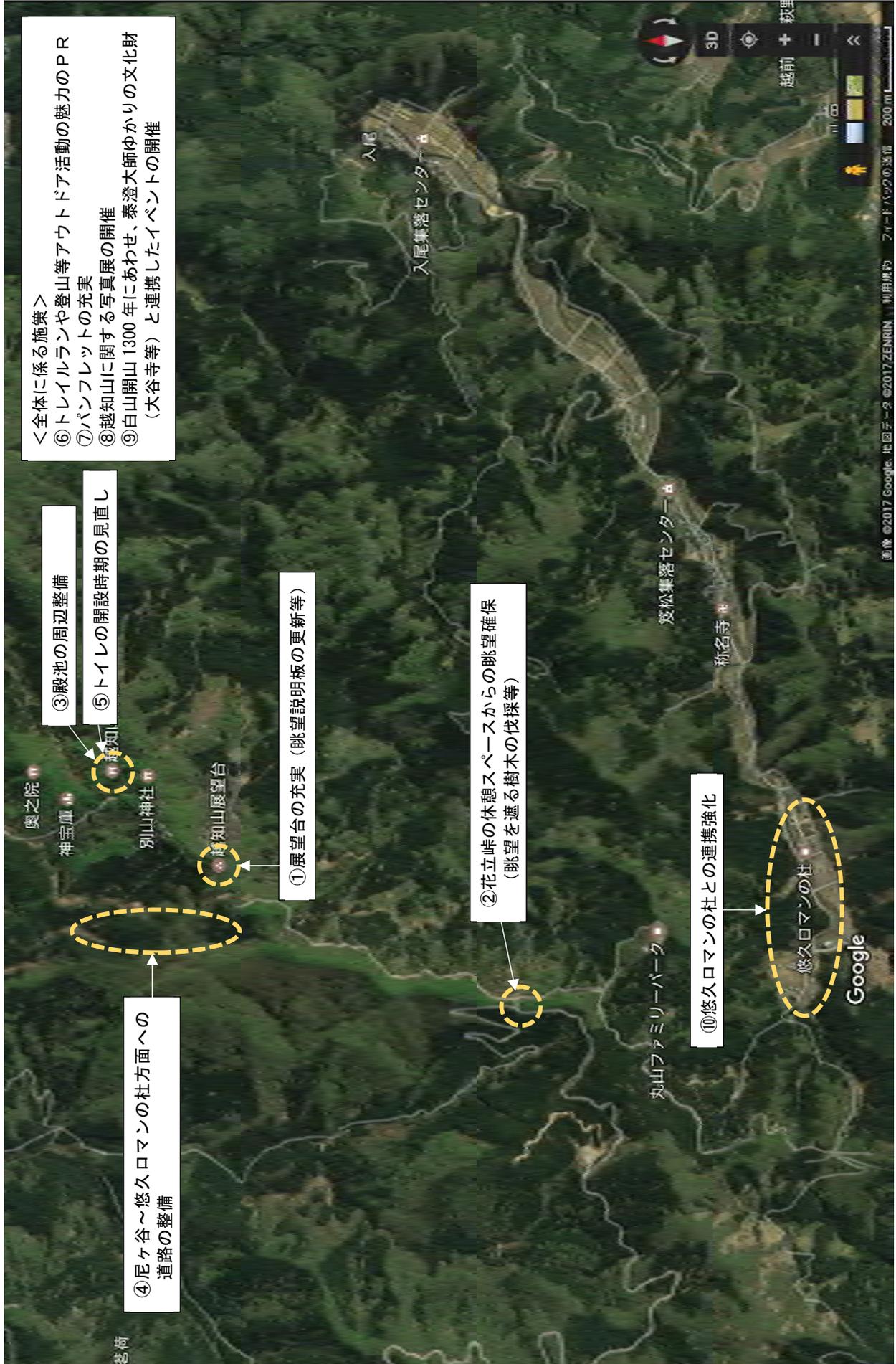
⑩悠久ロマンの杜との連携強化

- ・越知山に最も近い宿泊・レジャー施設である「悠久ロマンの杜」との連携を強化し、施設利用者に対してガイド付きの越知山登山・トレッキングツアーを提供するなど、越知山を体験してもらえる仕組みの構築を図ります。

【用語解説】

- ・トレイルラン：舗装されたフィールドを走るマラソンとは異なり、未舗装（75%以上）の起伏のある山道をランニングする陸上競技。大自然の景観を楽しみ、その中を思いきり走り抜ける爽快感だけでなく、泥や木の根などの障害物、視界を遮る木々などによる危険を回避しながら進む冒険性も備えている。
- ・トレッキング：山歩き。特に高山の麓（ふもと）を歩いて風景などを楽しむこと。自転車やスキーによるトレッキングなどもあり、必ずしも徒歩である必要はないが、登山のように山頂を目指して登るものではない。

＜越知山の環境再整備施策位置図＞



E-craft ～越前焼を体感するエリアの形成～

<主な現状・課題>

- ・越前陶芸村：陶芸村全体としての窓口機能がない（町施設と県施設が混在、管理者が別々）／文化交流会館のホール機能の老朽化／公園としての機能の不足（遊具、夜の演出、案内等）／越前焼関係者間の連携が弱い…等

<基本的な考え方>

- ・越前陶芸村（越前陶芸公園）の主要施設は福井県と越前町がそれぞれ所管していますが、「越前陶芸村」全体としての窓口がなく、来訪者からの問合せ対応に苦慮していることなどから、県・町共同による総合窓口の開設を検討するなど、問合せ対応や広報活動の充実を図ります。
- ・町が所管する越前陶芸村文化交流会館は、714 席を有する演奏会や講演会を行うホールを中心に、現代越前焼陶芸作家の作品を展示しているロビー、自分好みの越前焼を選んでコーヒーが飲めるコーナーなどを有しています。しかし、核となるホールの音響設備等の機能が一部損なわれている状態であることを踏まえ、ホール機能の見直しなどを検討する必要があります。
- ・また、越前陶芸村（越前陶芸公園）の中には、越前焼で十割そばを提供する店が出店し人気を博しています。園内には岡本太郎やイサム・ノグチといった世界的アーティストの作品が展示されているほか、陶芸館では若手作家との連携による越前焼の展示・体験等が行われています。さらに、越前焼のルーツや歴史等の魅力を学ぶことで、これらの強みを活かし、『越前焼×食×アート』を切り口としたブランディングによるさらなる誘客を図ります。

<越前陶芸村の再整備に向けた施策>

基本方針：協働による運営体制の構築と越前焼産地としての魅力向上

区分	施策項目	実施主体（◎：主体、○：連携）				実施時期 (H29～37)
		地元	施設	町	その他	
ハード	①エントランス部分の再整備（空き店舗の活用等）	○		◎		_____
	②旧水野邸移設先の周辺整備			◎	県	_____
	③越前焼でコーヒーが飲めるカフェの拡充		◎	○		_____
	④案内サインの充実			◎	県	_____
	⑤陶芸公園としての景観整備（焼物を活かしたモニュメントの設置や作り手が見えるような施設の整備等）			◎	県、越前焼組合、窯元	_____
	⑥文化交流会館のホールの必要性や他用途への転換（展示スペース、屋内広場、企業等の研修センター、合宿所等）		○	◎		_____
	⑦子どもや家族連れが楽しめる機能の強化（遊具、レンタサイクル、パーソナルモビリティ等）		○	◎	県	_____
	⑧夜間のイルミネーションやライトアップの実施			◎	県	_____

(前頁の続き)

区分	施策項目	実施主体 (◎: 主体、○: 連携)				実施時期 (H29~37)			
		地元	施設	町	その他				
ソフト	⑨官民協働によるパークマネジメント組織の形成 (県・町・民間事業者)		○	◎	県、越前焼組合、窯元				
	⑩旧水野邸を活かしたイベントの開催		○	◎	県				
	⑪園内散策イベントの実施		○	◎	県				
	⑫日本六古窯サミットの開催		○	◎	県、越前焼組合				
	⑬世界的アーティストの作品の活用 (岡本太郎、イサム・ノグチ)		○	◎	県				
ネットワーク	⑭越前焼・食・アートを活かした観光ルートの設定 (周辺施設・資源との連携、古民家の再生・利活用等)	○	○	◎	県、観光連盟				
	⑮町外や県外の在住者との連携によるPRの充実 (特に感度の高い若い人たちとの連携)			◎	観光連盟				
	⑯町内各地のイベントを活かした連携強化 (イベント会場での越前焼販売等)			◎	県、越前焼組合、観光連盟				
	⑰フリーペーパーの充実 (周辺施設・資源との連携)		◎		県				
	⑱越前焼の歴史探訪ツアー等の実施	○		◎	観光連盟、越前焼組合				

① エントランス部分の再整備

- 越前陶芸村の入口部分にある空き店舗の活用等を図り、越前陶芸村を象徴するおもてなしのエントランスとして再整備します。

▼ 信楽陶芸村の例



②旧水野邸移設先の周辺整備

- ・福井県が行う越前古窯拠点施設（仮称）整備計画による旧水野邸（水野九右衛門の旧家屋）の移築にあわせて、駐車場からのアクセス道路などの周辺環境を整備することにより、丹南地域の「越前焼」、「越前漆器」、「越前和紙」等の伝統工芸や茶道・華道等の日本文化を国内外に発信する拠点施設として積極的な利活用を図ります。

▼旧水野邸の移築工事現場の様子



③越前焼でコーヒーが飲めるカフェの拡充

- ・文化交流会館の一角に設けられた「Coin Café」（越前焼で珈琲時間）の拡充を図ります。

▼Coin Caféの看板



▼Coin Caféの様子



④案内サインの充実

- ・鯖江IC、武生ICからのアクセスや外国人観光客への対応を考慮し、越前陶芸村までの案内サインの充実（既存サインのリニューアルや新たなサインの設置）を図ります。

⑤陶芸公園としての景観整備

- ・「越前焼」の産地らしさを演出するため、焼物を活かしたモニュメントの設置や作り手が見えるような施設の整備等を行います。

⑥文化交流会館のホールの必要性や他用途への転換

- ・文化交流会館のホール機能が老朽化しており、更新期を迎えていることから、その必要性を検討するとともに、多用途への転換可能性を探ります。

▼文化交流会館



▼ホールの状況



⑦子どもや家族連れが楽しめる機能の強化

- ・陶芸公園における遊具の充実や、レンタサイクル、セグウェイ等のパーソナルモビリティの導入などにより、子どもや家族連れが楽しめる機能の強化を図ります。

⑧夜間のイルミネーションやライトアップの実施

- ・陶芸村内の樹木や芝生広場、モニュメント、文化交流会館等の建物などを活かしたイルミネーションやライトアップを行うことにより、幅広い年齢層の集客と周辺地域の活性化を図ります。

⑨官民協働によるパークマネジメント組織の形成

- ・県、町、民間事業者（越前焼関係者）等の連携・協働により、陶芸村内のイベント等の事業を一体的に管理・運営するパークマネジメント組織を形成し、積極的な利活用を図ります。

⑩旧水野邸を活かしたイベントの開催

- ・現在、移設・整備が行われている旧水野邸を活かし、茶会などのイベントを開催することで、越前陶芸村のコンテンツの充実を図ります。

▼越前秋季陶芸祭における茶会の様子



⑪園内散策イベントの実施

- ・県、町、施設関係者等が連携し、フォトロゲイニングなど、広い園内を楽しく散策・回遊できるイベントを企画・実施します。

【用語解説】

- ・パーソナルモビリティ：1人乗りのコンパクトな移動支援機器のこと。
- ・パークマネジメント：公園をただ維持管理するのではなく、都市経営の視点から公園を運営していく考え方で、具体的には公園にカフェや保育所を設置するなど、公益的な取り組みで収益をあげながら、維持管理等を含めて公園を運営していくことを指す。
- ・コンテンツ：「中身」となるモノやコト。
- ・フォトロゲイニング：地図をもとに、時間内にチェックポイントを回り、得点を集めるスポーツ。チームごとに作戦を立て、チェックポイントでは見本と同じ写真を撮影する。チェックポイントに設定された数字がそのまま得点となり、より合計点の高いチームが上位となる。

⑫日本六古窯サミットの開催

- ・日本六古窯とは、日本古来の陶磁器窯のうち、中世から現在まで生産が続いている代表的な六つの窯と定義されるもので、越前焼（福井県越前町）のほか、瀬戸焼（愛知県瀬戸市）、常滑焼（愛知県常滑市）、信楽焼（滋賀県甲賀市）、丹波立杭焼（兵庫県篠山市）、備前焼（岡山県備前市）のことを指します。これら産地の首長や関係者が一堂に会する「日本六古窯サミット」を越前陶芸村で開催することにより、越前焼の聖地としてアピールします。

⑬世界的アーティストの作品の活用

- ・「岡本太郎」や「イサム・ノグチ」の作品を活かし、ホームページ等によるPRを強化するとともに、屋外芸術展等の開催や他都市との連携を図ります。（例 大阪市：万博公園、札幌市：モエレ沼公園等）

▼岡本太郎「月の顔」



▼イサム・ノグチ「アトミック・ヘイスティック・レイン・マウンテン」



⑭越前焼・食・アートを活かした観光ルートの設定

- ・越前陶芸村の周辺部にある飲食店やギャラリー、工房などを活かし、例えば越前焼で十割そばを楽しむ、越前焼の陶芸作家との出会いや対話を演出するなど、越前陶芸村を核としたヒト・モノ・コトを堪能できる観光ルートを設定・周知します。

▼越前焼でたけのこ飯・マコモダケ・そばなどを楽しむ



⑮町外や県外の在住者との連携によるPRの充実

・町外・県外に住む越前町出身者や関わりのある人、福井のまちづくりを応援する人（特に、越前町や福井県内出身で、大都市圏などで活動している若い人々）と連携し、越前町の良さや越前陶芸村での取り組みを広く紹介してもらうなど、PRの充実を図ります。

⑯町内各地のイベントを活かした連携強化

・越前陶芸村での各種イベントに加え、同じ町内のイベントである「越前カニまつり」や「越前さかなまつり」など集客力のあるイベント会場での越前焼販売ブースを出店するなど、町内各地のイベントとの連携強化を図ります。

⑰フリーペーパーの充実

・越前陶芸村ほのぼの会が発行しているフリーペーパー「ほのぼの」の充実を図るとともに、町内外での配布・PRを強化します。

▼フリーペーパー「ほのぼの」



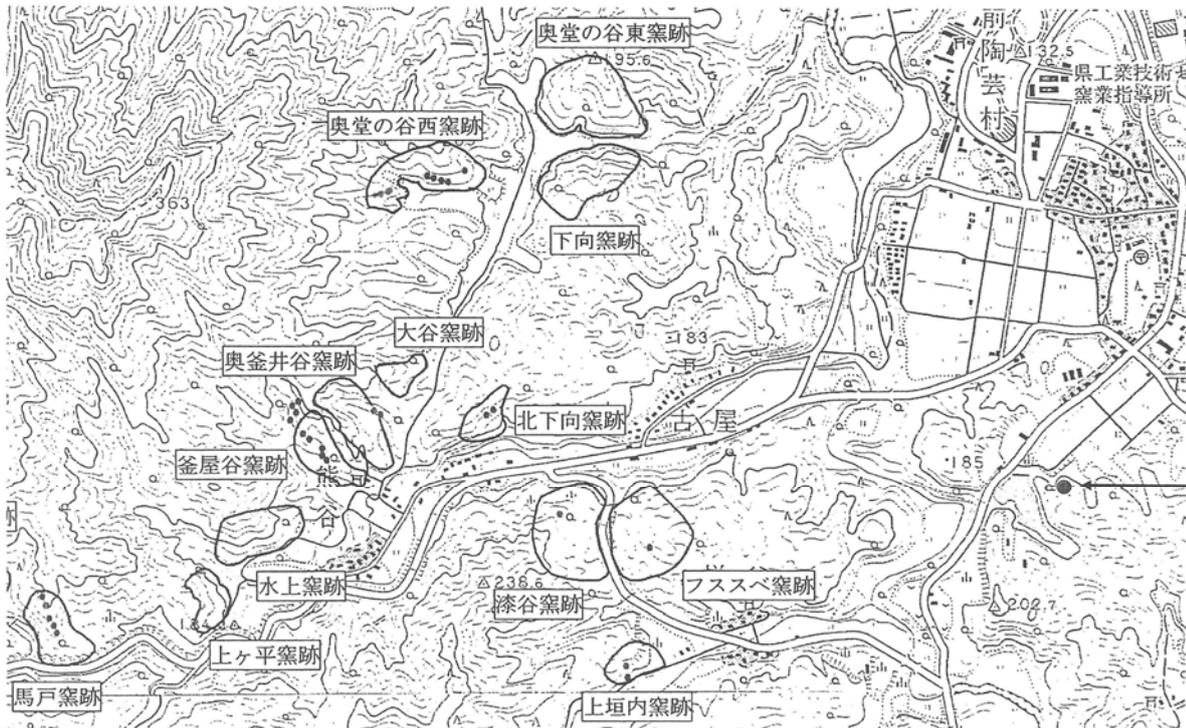
⑱越前焼の歴史探訪ツアー等の実施

- ・平安末期を起源とする越前焼のルーツを探るため、小曾原～熊谷～平等に広がる古越前窯跡群を巡るとともに、陶芸館やわづみ館での陶芸体験、作家のギャラリーやアトリエ巡りなどを組み合わせ、越前焼産地としての魅力向上・情報発信・ファンづくりを図ります。

▼窯元ツアーの様子



▼陶芸村付近の窯跡群



E-coast ～越前海岸を楽しむエリアの形成～

<主な現状・課題>

- ・道の駅「越前」：温泉やプール等の設備の老朽化／案内やPRの不足／道の駅としての機能が弱い（トイレの場所がわかりにくい、駐車場が狭く入りづらい）／駐車場に車を止めて宿泊する人が多い…等
- ・越前岬水仙ランド：平成26年1月に地元の意向を踏まえて策定された計画が実行されていない／活用が望まれる施設が閉館状態（旧案内所）／水仙開花時期（冬期）以外の施設利用が低調／トイレや展望台等の付帯施設の老朽化／駐車場の不足…等

<基本的な考え方>

- ・道の駅「越前」は、本町の観光を支える重要な交流拠点であり、平成28年にリニューアルオープンした越前がにミュージアムも含め多くの観光客で賑わっています。しかし、温泉やプールといった維持管理に費用のかかる施設が主体であることから、これら施設インフラのメンテナンスや再整備を着実にしながら、利用ニーズに対応していくものとします。
- ・水仙ランドは、周辺道路が脆弱なためアクセス性に難があるほか、水仙が咲く時期以外の集客力に乏しい状況にあります。しかし、越前海岸の眺望を活かしたレストランの新設が予定されており、カニなどの海産物や地場の食材、越前焼などの工芸品を組み合わせた越前町ならではの食を提供することで、通年での集客が期待できます。
- ・これらの交流拠点施設に加え、温泉や海水浴場も観光資源の一つであることを再認識し、海鮮・水仙・温泉・海水浴をキーワードとしたブランディングにより、さらなる誘客を図ります。

<道の駅「越前」の再整備に向けた施策>

基本方針：道の駅としての機能強化と情報発信の充実

区分	施策項目	実施主体（◎：主体、○：連携）				実施時期 (H29～37)
		地元	施設	町	その他	
ハード	①案内サインの充実			◎		■
	②道の駅としての機能強化（トイレの増設、駐車場、物販施設、越前がにミュージアム側との一体的な再整備等）		○	◎		■
	③海水浴や釣り、ツーリングの拠点となる機能の充実		○	◎		■
	④海が望める展望スペースと足湯の整備		○	◎		■
ソフト	⑤テナントの充実（越前町の魚介類や農林産物の販売エリアの充実、営業時間の延長等）		◎	○		■
	⑥施設内での案内表示の充実（アクティブ側と越前がにミュージアム側の一体的な施設案内等）		◎	○		■
ネットワーク	⑦SAやPAでの情報発信		◎	○	観光連盟	■

①案内サインの充実

- ・ I C（鯖江・武生・敦賀）からのアクセス、南北に位置する福井市、越前市、敦賀市からのアクセスを考慮し、道の駅「越前」までの案内サインの充実（既存サインのリニューアルや新たなサインの設置）を図ります。

②道の駅としての機能強化

- ・ 道の駅「越前」は、道の駅としての重要な要素であるトイレや駐車場が不十分でわかりにくいとの指摘があることを踏まえ、トイレの増設や駐車場・物販施設の充実、越前がにミュージアム側との一体的な再整備等により、道の駅としての機能強化を図ります。

③海水浴や釣り、ツーリングの拠点となる機能の充実

- ・ 越前海岸での海水浴や魚釣りなどのアクティビティを支える機能（風呂やシャワー、釣り道具販売等）の充実や、ツーリング途中の癒し機能（展望スペース等）の充実を図ることにより、交流拠点施設としての利便性向上を図ります。

④海が望める展望スペースと足湯の整備

- ・ 海岸沿いの眺望に恵まれた立地を活かし、既存の駐車場や建物、グラウンドの一部を活用することにより、海が望める足湯付きの展望スペースを整備します。

▼足湯付き展望スペースのイメージ



出典：萩本陣HP（奥萩展望台・絶景足湯）

⑤テナントの充実

- ・ 道の駅「越前」や「越前がにミュージアム」にあるテナントの営業時間やサービス内容を見直し、来訪者に対するおもてなしの充実を図ります。

▼道の駅「越前」アンテナショップ



▼越前がにミュージアムのテナント



⑥施設内での案内表示の充実

- ・アクティブ側と越前がにミュージアム側の一体的な施設案内表示を新たに設置することにより、道の駅としての一体感を醸成するとともに、来訪者の案内性向上を図ります。

⑦SAやPAでの情報発信

- ・マイカーでの来訪者がメインターゲットとなることから、北陸自動車道のサービスエリアやパーキングエリアでの情報発信を強化し、道の駅「越前」の知名度向上と来訪者増加を図ります。

＜道の駅「越前」の再整備施策位置図＞



<越前岬水仙ランドの再整備に向けた施策>

基本方針：越前海岸の眺望を活かしたオールシーズン楽しめる環境づくり

区分	施策項目	実施主体 (◎：主体、○：連携)				実施時期 (H29～37)
		地元	施設	町	その他	
ハード	①施設（旧案内所・自然文学資料館）の再整備や活用			◎		
	②芝生広場や駐車場、オートキャンプ場の整備		○	◎		
	③「恋人の聖地」モニュメントの設置		○	◎		
	④トイレや展望台、散策路等の充実（手すり、夜間照明等）		○	◎		
	⑤水仙の館のグレードアップ（学術的な展示、子どもが楽しめる場所、眺望テラスの整備等）		○	◎		
ソフト	⑥イルミネーション事業の拡充	◎	○	○		
	⑦体験型観光ツアーや戦略的なイベントの開催	○	○	◎	観光連盟	
	⑧効果的な広告・宣伝の実施		◎		観光連盟	
	⑨「恋人の聖地」としてのブランド化		○	◎		
ネットワーク	⑩梨子ヶ平の千枚田等の絶景ポイントとの連携施策	○	○	◎		

①施設（旧案内所・自然文学資料館）の再整備や活用

- ・旧案内所の閉館状態を改善し、開館することによって来園者に水仙ランドの魅力をアピールします。
- ・旧案内所は、地域や水仙ランドの案内所としての機能に加え、地域の物産販売所や「ものづくり体験」ができる施設としての活用を目指します。
- ・自然文学資料館が改修され、平成 29 年度からレストランとして開業されることに伴い、食をテーマにしたイベント等を企画し、誘客の拡大を図ります。

▼旧案内所



▼自然文学資料館



出典：水仙ランド再開発基本計画（平成 26 年 1 月）

②芝生広場や駐車場、オートキャンプ場の整備

- ・水仙開花時期（冬季）以外において、効果的な施設利用を目指すため、水仙以外の観光ニーズにあった魅力ある施設の導入を図ります。
- ・ハーブ栽培ハウスを撤去し、子ども連れの家族等が遊ぶことができる芝生広場や、アクセスに欠かせない駐車場、越前海岸の素晴らしい眺望を活かしたオートキャンプ場を整備します。

▼現在のハーブ栽培ハウス周辺



③「恋人の聖地」モニュメントの設置

- ・美しい夕日を望むことができる展望台を鍵や鐘といった仕掛けのある「恋人の聖地」のモニュメントを設置することにより、カップルなど若年層の利用客獲得を図ります。

▼水仙の館付近（モニュメント設置候補箇所）



▼モニュメントイメージ



出典：水仙ランド再開発基本計画（平成 26 年 1 月）

④トイレや展望台、散策路等の充実

- ・水仙ランド内に整備されているトイレを改修（新築）し、清潔な施設へのリニューアルを図ります。
- ・老朽化の進む展望台や展望所、芝生広場を改修し、安全性と景観性の確保を図ります。
- ・園内の散策路において、危険な箇所への転落防止柵、手すり設置や階段の改修等を行い、安全性と利便性の向上を図ります。
- ・夜間利用に配慮し、主要施設周辺に照明灯の整備を図ります。

【トイレ】



【展望所】



【路面不良箇所】



【散策路階段】



出典：水仙ランド再開発基本計画（平成 26 年 1 月）

⑤水仙の館のグレードアップ

- ・鑑賞庭園だけでなく、学術的な展示の充実や子どもたちが集える場所となるよう再整備を図ります。また、効率のよい空調が可能となる施設への改修（空間の間仕切り等）や眺望を楽しむことができるテラスの設置を行います。



出典：水仙ランド再開発基本計画（平成26年1月）

⑥イルミネーション事業の拡充

- ・ソーラーパネルとLEDを搭載した「ペットボトル」により彩られるイルミネーションイベント「水仙岬のかがやき」は、高い人気を集めるイベントとなっていることから、規模や実施時期を拡充し、水仙ランドへの集客と認知度の向上、地域住民のシビックプライドの醸成を図ります。

▼「水仙岬のかがやき」の様子



⑦体験型観光ツアーや戦略的なイベントの開催

- ・観光連盟や各旅館との連携のもと、水仙ランドや周辺農地での農業体験、漁協との連携による漁業体験などの体験型観光ツアーやイベントを開催することにより、交流拠点施設としての魅力向上を図ります。

⑧効果的な広告・宣伝の実施

- ・水仙ランドのホームページ等の既存広報媒体の充実を図るとともに、観光連盟との連携により、広域的・効果的な広告・宣伝活動を行います。

⑨「恋人の聖地」としてのブランド化

- ・③による「恋人の聖地」のモニュメント設置にあわせて、各種広報媒体を用いたPRや新たな商品開発を企画・実施することにより、「恋人の聖地」としてのブランド化を図るとともに、リピート率向上につながる施策を展開します。

⑩梨子ヶ平の千枚田等の絶景ポイントとの連携施策

- ・越前岬水仙ランドの北部に位置する梨子ヶ平の千枚田などの絶景ポイントとの連携施策を検討・実施することにより、集客力の強化と回遊性の向上を図ります。
→例えば、水仙ランド来訪者へのチラシでの周知、観光連盟ホームページによるPR、地域住民の連携によるおもてなしイベントの開催など。

【用語解説】

- ・シビックプライド：都市や地域に対する誇りや愛着のこと。自分自身関わって地域を良くしていこうとする当事者意識に基づく自負心のことを指す。

〈越前岬水仙ランドの再整備施策位置図〉



E-history ～歴史と文化を習得するエリアの形成～

<主な現状・課題>

- ・ 劔神社周辺地域：劔神社にはたくさんの参拝客が訪れているが、お土産や飲食などお金を使う場所がない／織田信長像が離れている／町並みに魅力がない／まちづくりの推進体制が弱い…等
- ・ 悠久ロマンの杜：周辺の資源との連携の不足／場所がわかりにくい／上下水道が一部未整備…等

<基本的な考え方>

- ・ 越前二の宮「劔神社」は、織田信長が氏神として信仰した由緒正しき神社であり、かつて駅前通りは門前町として栄えました。そのころの町並みに思いを馳せ、劔神社周辺の歩行空間の整備や沿道土地利用の促進ならびに修景整備を図り、劔神社を中心とした賑わいある交流拠点としての再整備を目指します。
- ・ 現在、織田信長像が劔神社から数百メートル離れたバスターミナルの一角に設置されており、劔神社や織田文化歴史館への来訪者が気軽にアクセスできない状況にあります。また、織田文化歴史館は当該地域の歴史や文化を知ることができ、国宝「梵鐘」を有していますが、知名度が低い状況にあります。
- ・ 劔神社周辺の再整備にあわせて、織田信長像の移設等を検討するなど、新たな観光スポットとしての整備を目指します。あわせて、織田信長・国宝・劔神社をキーワードとしたブランディングにより、さらなる誘客を図ります。
- ・ 悠久ロマンの杜には、田舎暮らしが体験できる茅葺屋根の宿泊施設等があり、一体的に管理しているエボン山展望台から見える雲海も絶景ですが、知名度に欠けるためPR活動の充実を図ります。また、泰澄大師が開山した越知山にも近いことから連携したブランディングを図ります。

<劔神社周辺地域の再整備に向けた施策>

基本方針：劔神社を核とした町並み整備と集客力・回遊性の向上

区分	施策項目	実施主体（◎：主体、○：連携）				実施時期 (H29～37)
		地元	施設	町	その他	
ハード	①劔神社周辺の町並み整備（石畳の敷設、無電柱化、消融雪、観光バス停留所、織田川、町並みの修景整備等）			◎		
	②文化歴史館における写真撮影スポットの整備（駐車場における信長像の移設や織田家の家紋の設置等）		◎			
	③空き家や空き店舗を活用した土産販売所や飲食スペースの設置（雨田光平記念館2階、バスターミナル2階、旧織田町役場庁舎等）		◎			
	④バスターミナルの観光バス駐車場への転用と駅前通りの再整備			◎		
ソフト	⑤織田一族発祥の地のPR		○	◎	観光連盟	
	⑥信長公を活かした新たな土産物の開発	◎		○		
ネット ワーク	⑦越前陶芸村や「よって駅ね」等との連携		○	◎	観光連盟	
	⑧越知山や座ヶ岳社との連携		○	◎		

① 劔神社周辺の町並み整備

- ・ 劔神社周辺地域の魅力アップを図るため、劔神社横の道路の修景整備（石畳の敷設、無電柱化、消融雪設備、観光バス停留所の整備等）、織田川を活用した水辺空間の創出や潤いある景観の整備、劔神社を核とした町並みの修景整備等を行います。

▼ 劔神社横の道路の状況



▼ 織田川側から劔神社をのぞむ



② 文化歴史館における写真撮影スポットの整備

- ・ 現在、劔神社から数百メートル離れたバスターミナルのところに設置されている織田信長像について、織田文化歴史館駐車場への移設、あるいは駐車場において織田家の家紋の設置等を行い、来訪者の写真撮影スポットを整備します。

▼ 織田文化歴史館



③ 空き家や空き店舗を活用した土産販売所や飲食スペースの設置

- ・ 劔神社周辺の空き家や空き店舗（雨田光平記念館の2階や屋上、バスターミナル2階、旧織田町役場庁舎等）を活用し、劔神社への参拝客などの来町者をもてなす土産販売所や飲食スペースの設置を図ります。

→施設としての常設化ありきではなく、まずは劔神社や文化歴史館駐車場の一角などを活用し、テント等を用いて休日や観光・参拝シーズン限定の仮設店舗を地元主体（官民連携）で実施し、需要や反応を見ながら常設化を検討していく必要があります。

▼ 雨田光平記念館2階の様子



▼ 雨田光平記念館屋上の様子



④バスターミナルの観光バス駐車場への転用と駅前通りの再整備

- ・現在のバスターミナルを改修して観光バス駐車場に転用するとともに、駅前通りの修景整備を行うことで、駅前通り～劔神社・文化歴史館や周辺の町並みを散策・回遊できるよう面的な再整備を行います。

▼バスターミナルと信長像



▼駅前通り



⑤織田一族発祥の地のPR

- ・歴史的人物の中でも人気の高い織田信長の一族発祥の地であることを強みとして、さらなるPRを図ります。

⑥信長公を活かした新たな土産物の開発

- ・劔神社をはじめとする地元関係者との連携のもと、織田信長のキャラクターグッズなど、来訪者が気軽に購入できる新たな土産物の開発を進めます。

⑦越前陶芸村や「よって駅ね」等との連携

- ・平等地区には町指定文化財の甕墓が存在するなど、焼物の歴史も古く、越前陶芸村との連携を図るとともに、「よって駅ね」等の既存施設との連携を強化し、互いにPRや送客を図るなど、交流施設間の回遊を促進します。

⑧越知山や座ヶ岳社との連携

- ・泰澄大師ゆかりの地である越知山や大谷寺、また、劔神社がまつられていたとされる座ヶ岳社など、すでに来訪需要のある周辺施設との連携を強化し、越前町の歴史と文化を体感できるエリアとしての魅力向上を図ります。

▼座ヶ岳社



▼座ヶ岳社の説明板



＜劔神社周辺地域の再整備施策位置図＞



②文化歴史館における写真撮影スポットの整備（駐車場における信長像の移設や織田家の家紋の設置等）

③空き家や空き店舗を活用した土産販売所や飲食スペースの設置（雨田光平記念館2階、バスターミナル2階、旧織田町役場庁舎等）

④バスターミナルの観光バス駐車場への転用と駅前通りの再整備

①劔神社周辺の町並み整備（石畳の敷設、無電柱化、消融雪、観光バス停留所、織田川、町並みの修景整備等）

＜全体に係る施策＞
 ⑤織田一族発祥の地のPR
 ⑥信長公を活かした新たな土産物の開発
 ⑦越前陶芸村や「よって駅ね」等との連携
 ⑧越知山や座ヶ岳社との連携

＜悠久ロマンの杜の再整備に向けた施策＞

基本方針：エボシ山や越知山との連携強化と大自然の魅力発信

区分	施策項目	実施主体（◎：主体、○：連携）				実施時期（H29～37）			
		地元	施設	町	その他				
ハード	①上下水道施設の充実（特に雨天時の対策の検討）		○	◎					
	②案内サインの充実		○	◎					
	③子どもを呼び込むための施設整備		○	◎					
	④エボシ山展望台及びバーベキュー場までのアクセス道路の整備			◎					
ソフト	⑤エボシ山の雲海のPR		◎	○	観光連盟				
	⑥悠久そばの販売促進		◎						
	⑦ガイド付きトレッキングの実施	○	◎	○					
ネットワーク	⑧越知山との連携（登山やトレイルランの来訪者等）		○	◎					
	⑨劔神社との連携（座ヶ岳社の活用等）		○	◎					

①上下水道施設の充実

・悠久ロマンの杜の各施設における上下水道施設の充実を図ります。特に、雨天時の水質悪化対策を検討します。

②案内サインの充実

・鯖江ICや武生ICから悠久ロマンの杜までの案内サインの充実（既存サインのリニューアルや新たなサインの設置）を図ります。

③子どもを呼び込むための施設整備

・敷地内にある遊具の充実やアスレチック施設の整備など、子どもが自然体験とともに楽しめる場づくりを推進します。また、スーパースライダー跡地の活用方策を検討します。

④エボシ山展望台及びバーベキュー場までのアクセス道路の整備

・悠久ロマンの杜と一緒に管理運営しているエボシ山展望台や併設のバーベキュー場のより一層の利活用を促進するため、現在は車両のすれ違いができない狭隘区間を拡幅するなど、悠久ロマンの杜～エボシ山展望台をつなぐアクセス道路を整備します。

⑤エボシ山の雲海のPR

- ・エボシ山展望台からみえる美しい雲海を町内外に広くPRすることにより、悠久ロマンの杜やエボシ山展望台への来訪者の増加を図ります。

▼エボシ山展望台からのぞむ雲海



⑥悠久そばの販売促進

- ・悠久ロマンの杜で販売している「悠久そば」について、施設内だけでなく町内各地のイベント会場で販売するなど、販路拡大を図ります。

⑦ガイド付きトレッキングの実施

- ・悠久ロマンの杜から越知山やエボシ山などの周辺地域を散策するガイド付きトレッキングを実施することにより、アウトドア愛好家や健康志向の人々の新規需要を喚起します。

⑧越知山との連携

- ・登山やトレイルランを目的とする越知山来訪者の活動拠点や宿泊場所として、悠久ロマンの杜の利活用を促進します。

⑨劔神社との連携

- ・劔神社参拝客の宿泊・休憩場所として連携するとともに、座ヶ岳社との連携を図りアクセス経路を案内するなど、来訪者の回遊行動をサポートします。

<悠久ロマンの杜の再整備施策位置図>

